1 概要

- 1-1 背景・目的
- 1-2 対象範囲
- 1-3 検討の流れ
- 1-4 検討テーマ

1-1 背景・目的

(1) 背景

〇令和元年8月 「TOKYO Data Highway 基本戦略」 公表

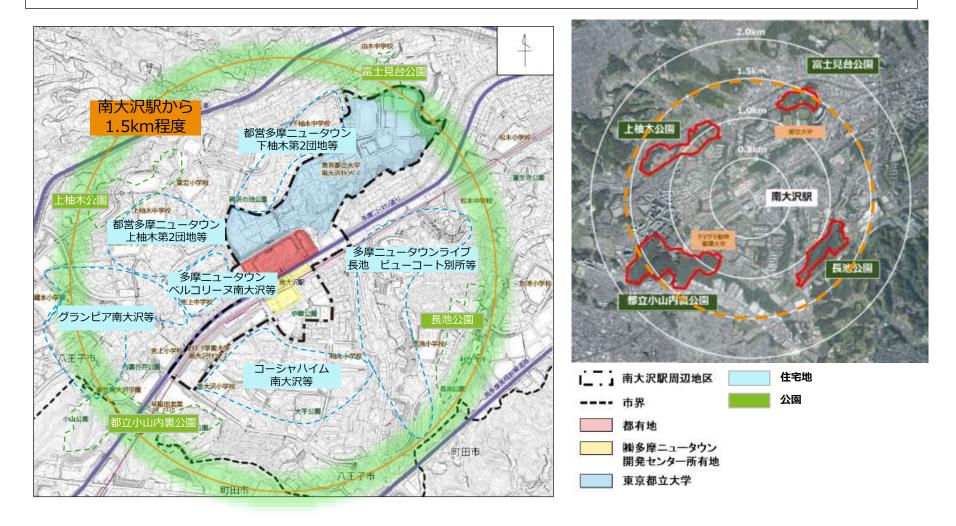
- ・東京都立大学を「5Gの重点整備エリア」として位置付ける。
- ○令和元年12月 「未来の東京」戦略ビジョン 公表
 - ・南大沢地区を「スマート東京」先行実施エリア(※)として位置付ける。
 - (※) 5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装を先行的に実施していくエリア
- 〇令和2年2月 「スマート東京実施戦略」 公表
 - ・南大沢を最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリアとして目指していく。
 - ・先端技術を活用したまちづくりの検討として、「協議会の設立」や「実証実験の推進」をしていく。
- ○令和2年2月 「南大沢駅周辺地区まちづくりの方向性(案)」を提示
 - ・まちづくりの将来像に「スマートなまち」として、「先端技術活用や産学公連携の促進」や「駅前と住宅地間のアク セス性強化」を位置付ける。
- ○令和3年3月 「未来の東京」戦略を提示
 - ・「地域特性に応じたスマートなまちづくりの展開」において、南大沢地区を「先端技術を活用したまちづくりの検討・実証実験」、「多様な先端技術を社会実装・他地域展開」と位置付ける。
- ○令和5年3月 「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」を提示
 - ・分野別のまちづくり方針に「先端技術の方針」や「エリアマネジメントの方針」等を位置付ける。

(2) 目的

- ・ 南大沢駅周辺は、都立大学をはじめ、商業施設や公共施設が集積し、学術研究と賑わい拠点が形成されている一方で、 起伏が大きい丘陵地であるため、高齢者等の移動等が課題となっている。
- こうしたまちの課題に対し、将来の動向等を踏まえ、産学公が連携して新たなスマートサービスを多数実装することで 都民のOOL(生活の質)の向上を実現していく。

1-2 対象範囲

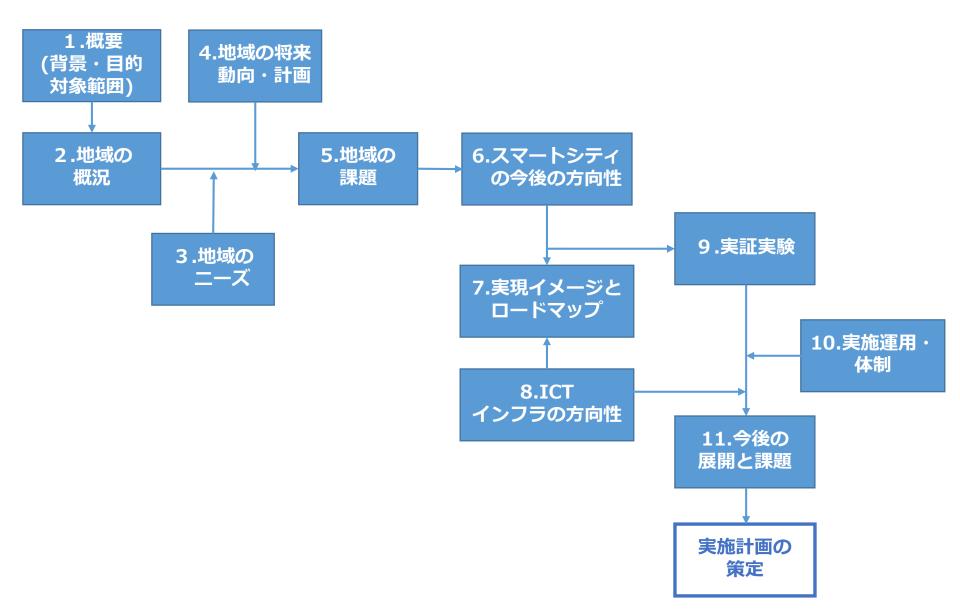
- 令和2年度は駅直近エリアだけを対象範囲としていたが、周辺の4か所の公園等の南大沢を象徴する地域資源や住宅団地を含むエリア(1.5km程度)へ対象範囲を拡大し検討を行う。
- また、検討の中心となる「コアエリア」として、ペデストリアンデッキやロータリー、駅前商業施設等の駅前エリアを想定している。



出典)国土地理院「国土地理院HP 地図・空中写真閲覧サービス」、八王子市「八王子市HP」、東京都公園協会「東京都公園協会HP」を基に作成

1-3 検討の流れ

<スマートシティ実施計画の検討の流れ>



1-4 検討テーマ

• 「モビリティ」、「まちの賑わい」、「情報、その他」の領域別にテーマを分けて、モビリティ領域はモビリティ部会、 まちの賑わい領域はまちの賑わい部会、情報領域及びその他領域は情報・その他部会にて検討を行う。

住民・来街者

サービス提供

モビリティ部会

モビリティ領域

移動の視点から南大沢の課題を検討・ 解決し、誰もがアクセスしやすい南大 沢の実現を目指す。

サービス

小型 モビリティ

MaaS

. . .

交通情報のリアルタイム情報発信

まちの賑わい部会

まちの賑わい領域

駅前と周辺地域を繋ぐことで人々の流れを活発化させ、多様な交流と連携を促進する機会や場の創出を目指す。

施設、店舗内の 歴史・四季等の 混雑情報提供 まちの魅力発信

商業施設案内

情報・その他部会

その他領域

モビリティやまちの賑わいと関連付けられるデータの活用方法やそれ以外の 取組の実装を目指す。

シェア オフィス

防災

再生可能エネルギー

インフラ提供

情報・その他部会

情報領域

モビリティやまちの賑わい等のサービスを支える汎用的なインフラ基盤の実装を目指す。

ICT インフラ インターフェース

デジタルサイネージ

3Dマップ

プラットフォーム(OS)

データマネジメント プラットフォーム 通信・ネットワーク

5G

LPWA

IoTデバイス

WEBカメラ

ビーコン

. .